

り、東ヨーロッパ諸国では各国協力してエコー衛星の同時観測のプログラムを数回にわたって実行している。

今回のアテネの測地利用のシンポジウムの期間中には、西ヨーロッパ諸国が、人工衛星同時観測についての打ち合わせ会を数回ひらいていた模様で、またアメリカ航空宇宙局の今後の測地衛星の計画も発表された。

また、今回のシンポジウムの特色として、測地学 (Geodesy) のみならず測月学 (Selenodesy) もとりあげられ、いくつかの論文が発表された。これはわれわれがいままで地球のまわりの人工衛星を使って測地学の研究をしてきたと同様に、将来月のまわりをまわる月衛星を

うちあげて、月の形などを決めようとしているもので、アメリカ航空宇宙局もこれを現実の問題としてとりあげているし、これからの面白い研究のテーマとなるだろう。

最後に一つつけ加えたいことは、パリーの会議に出席中、筆者と一緒にスミソニアン天文台で働いていた Imre Izsak が急死したことである。Izsak もアテネの会にも出席を予定していた、彼と筆者とはアテネで総合報告をするはずになっており、その報告の内容についてうちあわせをしたのが彼との最後の会話になってしまった。

海外のアマチュアによる変光星観測

変光星の観測は設備のないアマチュアにもできる観測対象として手頃なので、日本でも多くの人が関心をもっているところであるが、ここには筆者の目についた海外での活動状況を紹介しよう。

アメリカ変光星観測者協会 (AAVSO) は、すでに 54 年の古い歴史をもち、いままでに多くの成果をあげている。1963~64 の 1 年間には、18 カ国、322 名の観測者によって、69,830 個の目測がなされた。Fernald (6068 個)、P. de Kock (4492 個) など極めて熱心な人が多い。結果を取りまとめた各変光星の概況は、M. Mayall によって、毎月または隔月にカナダ天文学会雑誌に発表されている。観測対象は長周期変光星、SS Cyg, および新星掃索プログラムなどである。

英国天文協会の変光星部は、活動状況は華々しくないが、息の長いやりかたである。1960 年は 19 名によって、736 個、1961 年は 18 名によって 714 個の観測がなされた。いまは主として SS Cyg の連続光度曲線の追跡であるか、時々熱心家がでて長周期変光星などを活発にやる時がある。

この会の Brown は写真観測に熱心で、7 cm, F 2.9, 9 cm, F 5.6 などのカメラを使って、長周期変光星 R Cyg, U Cyg などのきれいな光度曲線を書いている。測定精度は、micro densometer を使った時、0.04 等、同時に行なった眼視観測は 0.14、写真乾板を目で比較したものは 0.16、写真乾板の目の比較は 0.19 等である。

ニュージーランド天文協会というのは、ほとんどアマチュアの団体と思われるが、そこの変光星部は極めて活発である。Bateson が主となって世話をしており、約 20 名の観測者が、長周期変光星、SS Cyg 型などを主として、すでに 1961 年末までの報告を Circular No. 114 ま

で出している。これは毎号に 3 个月分づつ 3000 個ないし 5000 個の報告をのせており、南天の変光星についての貴重な資料を提供している。

オランダ天文気象協会、ここは比較的歴史は新しいが、その変光星部の観測報告が、カプティン天文研究所の援助で出版されている。報告の No. 1 は 1961 年以前の観測、最近号 No. 5 は 1963 年 7~12 月の観測で、これには 12 名の観測者、(内オランダ 9、ベルギー 2、ドイツ 1) による 2085 個の観測がのっており、報告は毎号 8~10 頁程度である。

観測対象は長周期変光星、半周期星 SS Cyg, 新星などの眼視観測で、報告は整理の手数をばふいてか、各星ごとに、各観測者別にした J. D の順に並べてあるのが特徴である。

このなかの一人は光電観測に興味をもっていて、931A マルチプライヤー光電管を使って、RZ Cas, Nova Her, RR Lyr などの報告をのせている。

またこの会で出している“De Meteor”という雑誌には、食変光星 RZ Cas を 5 人の会員が眼視観測を行なった結果をまとめて、要素の改正、きれいな光度曲線などを発表している。

ポーランド天文学会からは“ウラニア”という通俗雑誌が発表されているが、その Annual Scientific Supplement に会員の変光星観測を集めている。J. Gadomski の編集で、1956 年発行の No. 1 は 1948~54 年までの長周期、半周期、ケフェウス型、食変光星などの観測を 38 頁に採録しており、No. 3 (1961 年) は 1952~57 年までの 8 名の観測者による 1866 個の長周期の観測の外、半周期星、 δ Cep, T Mon, β Peg などの観測 42 頁をのせている。

(下保 茂)